



芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋、成長の秋！

校長 早川 和男

去る11月16日(金)、17日(土)の2日間に、開校50周年記念音楽会を行いました。多数の方にご来校いただき、誠にありがとうございました。開校50周年を記念する一連の主な行事では、これが最後となります。

今年の音楽会のテーマは、「50周年おめでとう！～未来へつなぐ ハーモニー～」でした。どの学年の発表を見ても、みんなで心をついに力を合わせて歌ったり演奏したりしている様子がかがえ、素晴らしい音楽会になったと思います。まさに未来へつなぐハーモニーを奏でてくれたと思います。



音楽会の練習を始めたばかりの頃を振り返ると、鍵盤ハーモニカやリコーダーの指使いさえままならない子が多くいました。それから約1か月の間。いつもより早めに登校して朝練に打ち込む子の姿が見られました。休み時間にはどこからともなく練習する音が聞こえてきました。できる子が苦勞している子にやさしく教えてあげる微笑ましい姿がありました。子ども同士で音楽が苦手な子を励ましている素敵な場面にも出くわしました。活動を通して子どもたちは、よりよい人間関係を学んでいるのです。また、多くの子が家でも練習したのだと思います。各ご家庭に感謝申し上げます。そうして練習を重ねて上達し、クラスはどんどんまとまり、学年の心は一つになりました。全員で行う学校行事ならではの醍醐味です。その練習の成果を発揮し、本番の発表は大成功でした。「この日のためにがんばって練習してきた。」と言っている子がいました。そう、過程が大事なのだと思います。本番で素晴らしい発表ができたのはこの間の練習の努力があったからこそです。言わずもがなですが、先生方も大きく貢献しました。音楽専科の先生と担任の先生は何回も綿密に打ち合わせを行い、修正すべき部分を修正し、子どもたちのパフォーマンスをどんどん引き上げてきました。関わったみんなで作り上げた音楽会と言えます。十三小の子どもたちと先生方に心から称賛の拍手を送りたいと思います。



さて、秋も深まり寒さが増してきたこの頃ですが、季節のよい11月のこの時期にはその他にも様々な活動を行って参りました。先生方がおすすめの本を紹介したり、読書ビンゴや読書ガチャなどの取組を行ったりした「読書月間」。クラスやたてわり班で取り組んだ「なわとび旬間」。子どもたちの健全な心を育む「ふれあい月間」。また、小平市のイベントである“少年少女マラソン大会”や“なわとび甲子園”に参加した子もたくさんいます。

自分が興味のあること、得意なこと、やってみたいことに積極的に挑戦し、自分を高めていくことをしてほしいと思います。今後もそのような取組を応援し、称賛していきたいと考えています。